

Wendel, Friedrich. *Die Mode in der Karikatur*. Dresden, Paul Aretz, 1928. 300p. with illus. 25.5×17.5cm <383, 1-W>

Hiler p. 896 Colas 3069

カリカチュアの語源はイタリア語のカリカトゥーレ (caricature) であり、人間の姿態や事件の特徴をとらえて滑稽に表現した絵や文章、とりわけ絵画について言われることが多い。古くは古代エジプトにさかのぼり、石片やパピルスに描かれた鳥獣画などがある。近代的風刺画は18世紀イギリスの Hogarth、スペインの Goya などを中心に、19世紀には、フランスのドーミエが社会性をもつ政治漫画を鋭い風刺で描いている。風刺画は誇張されてはいるが、風俗の特徴を巧みにとらえており、服飾史研究上、好個の資料になっている。

本書は15世紀末から20世紀初頭までの様々な風刺画やファッション画を典拠として、モードの内側に隠された未解決な課題や現象について、そのヴェールをはぎ、衣服の本質を包括的に展望しようとしている。典拠資料には、1832年フランスで創刊された新聞『シャリバリ』Charivari、漫画中心誌としては世界最古といわれる週刊誌『パンチ』Punch、カリカトゥーレン・アルバム Karikaturen-Album などが用いられている。

内容は、1. モードの本質について 2. 悪魔馬車と地獄の双子 3. スペインの民族衣装 4. 当世風紳士 5. かつら寸劇 6. 優雅な時代 7. 大革命 8. 羊の股と蜂腰 9. クリノリン 10. 短かめのスカートと裳裾 11. トゥールニューール 12. 19世紀との訣別 13. 新世紀初頭と戦争 14. ショートスカートと断髪、の14章から成り、近代服飾史上の画期的な事象を解説している。(平井)